



# 富山大学学報

## 第246号

## 目 次

学 長 告 辞……………	2	学術講演会の開催……………	10
昭和59年度富山大学入学式 学長告辞……………	2	シリーズ 「富山大学、あの日あの頃」(8)	
関 係 法 令……………	4	〈つれづれの思い出〉……………	11
学 内 規 則……………	5	職 員 消 息……………	12
富山大学経営短期大学部教員の停年に関する		主 要 行 事……………	13
規則の一部改正……………	5	資 料……………	15
富山大学公開講座規則の一部改正……………	5	昭和59年度富山大学入学者数……………	15
富山大学学則の一部改正……………	5	昭和59年度大学院入学者数……………	16
諸 会 議……………	6	昭和59年度専攻科入学者数……………	16
学 事……………	7	昭和59年度経営短期大学部入学者数……………	16
学位取得者……………	7	昭和59年度富山大学学部学生数……………	17
人 事 異 動……………	8	昭和59年度大学院学生数……………	17
学 内 諸 報……………	9	昭和59年度専攻科学生数……………	18
叙位・叙勲……………	9	昭和59年度専攻生，聴講生，研究生数……………	18
名誉教授の称号授与……………	9	昭和59年度経営短期大学部学生数……………	18
海外渡航者……………	10		

---

## 学 長 告 辞

---

### 昭和59年度富山大学入学式 学長告辞

新入生の皆さん、本学への御入学、本当におめでとうございます。諸君はこれまで10年以上にもわたる長い学校生活の階段を昇りつめてこられ、いよいよその最後のステップを踏むことになったわけでありませぬ。諸君はこれから、本学における最終的な学校生活で、そのあとに控えている実社会への巣立ちの準備段階に入るわけでありませぬ。その意味でも諸君は重要な時機に差しかかっていることを自覚して下さい。そこでこの入学式に当たって、私は一人の先輩として、諸君が大学に入学したからには、どんな心構えで毎日を送ったらよいかということについて、御参考までに私見を申し述べてみたいと思ひます。

諸君はこれまで何段階かの入学試験を経てこられたわけですが、そのための勉強で得たものは何だったのでしょうか。鈴木大拙という哲学者は、いわゆる知識というものを、次の三つに区分しておられます。第一は読んだり聞いたりして取得するもので、英語でいえば information に当たるものであります。第二は分析したり推理したりすることで、これが本当の意味の knowledge に当たるものです。そして第三にはいわゆる直感 inspiration をあげています。

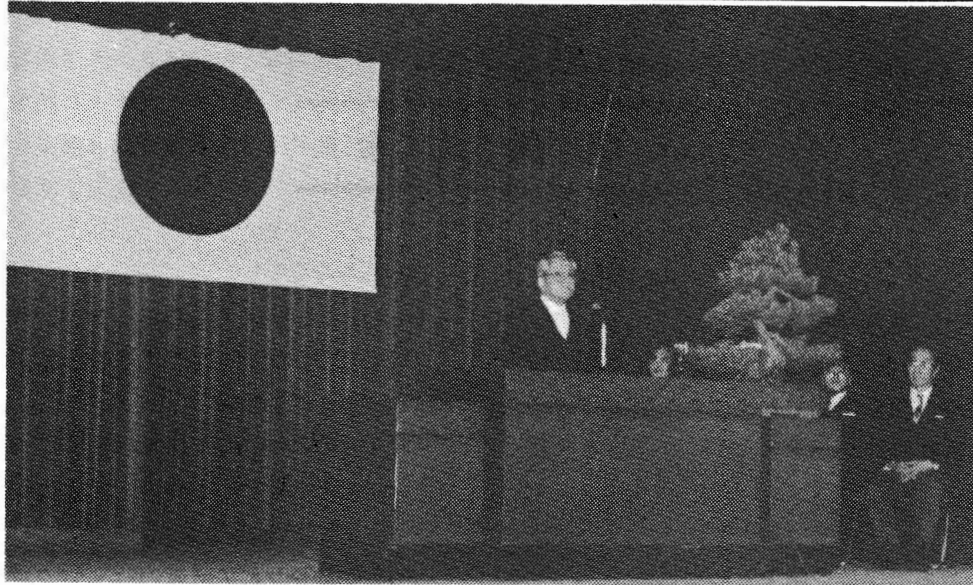
この分類に従いますと、諸君がこれまで一生懸命身につけてきたものは単なる information だったのです。あの共通第1次試験を考えてみて下さい。問いかけの長い文章があつて、そのあとに答えになる言葉がいくつか並んでいて、その中から適当なものを選び出して梓の中にはめ込むといった形の問題がよく出されています。これはまさに幼児が遊んでいる玩具のように、丸や三角の穴の中に丸や三角のブロックをはめ込んで遊ぶものとか、色々な複雑な形をした厚紙をはめていて、一つのパターンを作ってゆくはめ絵などと原理的には変わりありません。したがって受験生は、できるだけ多くの information を整理して頭の中にしまい込んでおいて、そのうち適当なものを、できるだけ短時間の間に引っ張り出して適宜処理するという、まさにコンピューターと同じ機能で処理してきたわけです。

もしそうだとすれば、さきに述べた知識の各項目のうち、最も重要な部分である分析と推理というステップが大きく抜け落ちていたこととなります。大学ではこの点を勉強してほしいのです。

そこでまず分析的なものの見方について考えてみましょう。どんな事柄でも細かくみてゆくと、一つ一つの素因子に分けてゆくことができます。これが分析とか解析であり、英語でいう analysis というステップであります。そうしますと、それまでは表面的には全く違ったものと思っていた事柄の間に、不思議と共通項が見つかってきます。ここが科学の事始めと考えて下さい。そうなったらまた他の事柄に目を向けて、また解析してゆきますと、またまた新たに共通項が見つかってきます。こうしてその共通項の重要さが次第に明らかにされてゆくのです。要するに世の中には、一見全く違った事象がいくつもありますが、それらの間には共通項、すなわち真理が見つかるのです。言ってみれば多くの事象の間には多様性と普遍性という、一見全く異なることが同居していることがわかるのです。

このことについて一つ生物に例をとって話してみましよう。生物の細胞には遺伝物質として DNA という物質があります。科学者達の多面的な研究の結果、この DNA 分子の中には遺伝暗号がかくされていることがわかってきました。そしてその暗号文の組み立てが、バクテリアからヒトまでほとんど同一だということがわかりました。バクテリアとヒト、この両者を比べて御覧なさい。一見したところ似ても似つかない代物です。それが遺伝現象という基本的なところでは、原理的に全く同じで、しかも遺伝暗号まで同じことがわかってきたのです。このように生物という多種多様な生き物の間に、かくもはっきりした普遍性が見いだされたのであります。

以上で分析や解析といわれるステップがいかに重要かがわかっていただけたと思ひますが、その次には総合という推理のステップが重要になってきます。子供



の玩具に積木というのがありますが、これは与えられた材料から、子供が好き勝手に考えて、一つの形あるものを作りあげるといふものです。諸君は先程も述べたように、これまで多くのinformationを頭の中に収納してきましたし、これから大学でも、さらに多くのinformationを注ぎ込んでゆくことになるでしょう。そこで伺いたいのですが、諸君は自分の持っているこれらのinformationを組み合わせて、一つのまとまった考えを打ち出すことができますか。そういわれても積木と違って、簡単には答えは出ないと思います。それが難しい一つの理由は、informationというものは一応無形のものであり、無形のもを素材として、無形のまとまったものを組み立ててゆくということの難しさとともに、多くのinformationをただ単に継ぎ合わせればよいのではなく、あるルールにのっとって組み立ててゆかねばならないという点も難しさの一つの原因になっています。このようなルールを学ぶのが大学であるし、またそうして個々に独立したinformationを総合してゆくことを学ぶのも大学なのです。言ってみればこのような無形の積木細工を楽しむのも一つの勉学態度と言えらると思います。

私は今日の話で、これまで、諸君が本学に入学してからこの勉学態度を、従来のような単なるinformationの蓄積とは大転換して、分析と総合を考えるようにしてほしいということを申し上げてきたのですが、最後にもう一つ、大学に入ってからは是非とも、努めて試みてほしいことをつけ加えさせていただきます。それは良き友を見いだしてほしいということです。諸君はもう知らない人かも知れませんが、菊田一夫とか吉川英治といった偉い方がいますが、この方々は大学を出て

いないそうです。しかし彼等は大学出身者に対してコンプレックスを感じずようなことはなかったが、ただ一つ、友達が少ないこと、結果として友情というものを味わう機会に余り恵まれなかったことだけは気懸りだったと言っておられたそうです。諸君はその意味では、これからも良き友を得るといふ無限の可能性もっています。近ごろの学生の中には、どうすれば良い友達が得られるか教えてほしいと言ってくる者がいるようです。恐らくそんな方は自分の中にこもり切りになっているのではないかと思います。

大学にはもちろんクラスもあります。またスポーツクラブもあれば文化サークルも数多くあります。どうか皆さん、自分の中に閉じこもってしまわずに、これらの課外活動グループに積極的に出掛けていって、大いに利用して下さい。ある大学で卒業生に対して、大学在学中に何が自分の人間形成にとって有益であったかのアンケートを行ったところ、非常に多くの者がクラブ活動を挙げたということです。諸君は臆することなく、積極的に自分に合ったサークルを選んで、そこに飛び込んでいって下さい。そしてその中から良き友を見いだし、大いに学生生活に花を添えて下さい。教室でも頑張る。課外活動でも頑張る。こうして諸君はこの大学をあらゆる面でできるだけ利用して下さい。その結果は、諸君が社会に出てから必ずプラスになって跳ね返ってくることになるでしょう。

誠に簡単ですが、これをもって入学のお祝いの言葉に代えます。

昭和59年4月10日

富山大学長 柳田友道



## 規 則

- 人事院規則（俸給表の適用範囲）の一部を改正する規則（人事院9-2） 4・12
- 人事院規則（俸給の特別調整額）の一部を改正する規則（人事院9-17） 4・23

## 告 示

- 無線従事者国家試験の一部を免除する学校として認定した件の一部を変更する件（郵政238） 4・2

- 大学院及び大学院の研究科の設置を認可した件（文部40） 4・4
- 昭和59年度学校図書館司書教諭講習実施要項を定めた件（文部47） 4・14
- 大学入学資格検定規程の受検科目のうち工業基礎を選択できない年を指定した件（文部48） 4・18
- 無線従事者国家試験の一部を免除する学校等を認定した件（郵政306） 4・20

## 学 内 規 則

## 富山大学経営短期大学部教員の停年に関する規則の一部改正

富山大学経営短期大学部教員の停年に関する規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和59年3月23日 富山大学経営短期大学部  
学長 柳田 友道

## 富山大学経営短期大学部教員の停年に関する規則の一部を改正する規則

富山大学経営短期大学部教員の停年に関する規則(昭和48年12月18日制定)の一部を次のように改正する。

附則(昭和48年12月18日)第2項を削る。

## 附 則

この規則は、昭和60年3月31日から施行する。

## ▶富山大学経営短期大学部教員の停年に関する規則の改正理由

昭和56年法律第77号により、国家公務員法の一部が改正され、定年に関する規定が定められ、昭和60年3月31日から施行されることとなった。

このことに伴い、本学の教職員の停年退職の日をこれに合わせるため、従来「富山大学経営短期大学部教員の停年に関する規則(昭和48年12月18日制定)」の附則第2項に定めた停年退職の日の取扱いについての読替規定を廃止する。

## 富山大学公開講座規則の一部改正

富山大学公開講座規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和59年4月5日 富山大学長 柳田 友道

## 富山大学公開講座規則の一部を改正する規則

富山大学公開講座規則(昭和57年11月12日制定)の一部を次のように改正する。

第7条第2項中「1,500円」を「2,500円」に改める。

## 附 則

この規則は、昭和59年4月5日から施行し、昭和59年4月1日から適用する。

## ▶富山大学公開講座規則の改正理由

国立の学校における授業料その他の費用に関する省令の一部を改正する省令の制定等について(事務次官通達、昭和59年3月31日文大生第139号)に基づき講習料の額を改定するため。

## 富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

昭和59年4月20日 富山大学長 柳田 友道

**富山大学学則の一部を改正する学則**

富山大学学則（昭和59年3月12日制定）の一部を次のように改正する。

別表第1の教育学部の項中「機械」を「<sup>機械</sup>技術科教育」に改める。

別表第2中

「

人文学部	人文学科	90名	350名
	語学文学科	80名	320名

」

を

「

人文学部	人文学科	90名	360名
	語学文学科	80名	320名

」

に、

「

合	計	1,195名	4,770名
---	---	--------	--------

」

を

「

合	計	1,195名	4,780名
---	---	--------	--------

」

に改める。

別表第4中「12,000円」を「14,000円」に、「6,000円」を「7,000円」に改める。

**附 則**

- この学則は、昭和59年4月20日から施行し、昭和59年4月1日から適用する。ただし、別表第1の改正については、昭和59年4月11日から適用する。
- 昭和59年3月31日以後引き続き在学している研究生、聴講生及び特別聴講学生に係る授業料の額は、学則その他の規則に定められた在学期間（在学期間が延長された場合で、当該延長期間の始期が昭和59年4月1日以後であるものを除く。）が満了するまで

の間は、従前の額とする。

- 昭和59年度において入学した研究生、聴講生及び特別聴講学生（昭和59年3月31日以後引き続き在学している者であって、学則その他の規則に定められた在学期間が延長された場合における当該延長期間の始期が昭和59年4月1日以後であるものを含む。）に係る授業料の額は、昭和59年度に限り、前期（4月1日から9月30日までをいう。以下同じ。）又は後期（10月1日から翌年の3月31日までをいう。以下同じ。）の別に従い、それぞれ次のとおりとする。

- 研究生に係る授業料の額は、前期にあっては月額12,000円とし、後期にあっては月額14,000円とする。
- 聴講生及び特別聴講学生に係る授業料の額は、前期にあっては、それぞれ1単位に相当する授業について6,000円とし、後期にあっては、それぞれ1単位に相当する授業について7,000円とする。

ただし、単位の修得に前期及び後期を通じて履修を必要とする授業科目に係る聴講生及び特別聴講学生の1単位に相当する授業についての授業料の額は、前期の1単位に相当する授業についての授業料の額の2分の1に相当する額と、後期の1単位に相当する授業についての授業料の額の2分の1に相当する額とを合わせた額とする。

**▶富山大学学則の改正理由**

- 富山大学における研究生、聴講生等に係る授業料を改訂するため、所要事項を改める。
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の改正に伴い、所要事項を改める。
- 人文学部の学年進行に伴い、所要事項を改める。

**諸 会 議**

**昭和59年度第1回事務協議会（4月12日）**  
（審議事項）

- (1)当面の諸問題について

- (1)入学式の事態について  
(2)当面の予算日程について

**昭和59年度第1回部局長懇談会（4月13日）**  
（審議事項）

**昭和59年度第1回附属図書館商議会（4月17日）**  
（報告事項）  
(1)図書館業務電算化進捗状況について







学 内 諸 報

叙 位・叙 勲

○昭和59年春の叙勲

4月29日の天皇誕生日に、昭和59年春の叙勲が発表され、本学関係では次の方が授章されました。

名誉教授 黒坂 富治 勲三等旭日中綬章

名誉教授 志甫 傳逸 勲三等旭日中綬章

名誉教授 館 熙道 勲三等旭日中綬章

名誉教授の称号授与

昭和59年4月停年退職された次の方々に對し、昭和59年4月20日付けで富山大学名誉教授の称号が贈られた。



名誉教授  
田中 久雄  
東京第三臨時教員養成所体練科卒業

昭和24年6月富山大学講師（教育学部）、同34年12月富山大学助教授（教育学部）、同50年3月富山大学教授（教育学部）となり、34年余りの永きにわたり終始熱心に教育・研究に専念された。

この間、教育学部附属小学校長を2年間務め、附属学校の発展に尽力された。

一方、体育理論・体育史の教授として研究に従事し、研究論文として、「授業における運動の学習過程」、著書には、「学習過程の成立と改善・授業過程における運動内容の順次性について」等を発表され、さらに、体育のグループ学習の方法論を県内に導入し、県下小・中学校における現在の体育学習指導研究の基礎を作るなど、本学のみならず、地域社会の発展に貢献された。



名誉教授  
四谷 平治  
東京工業大学電気工学科卒業  
工学士

昭和22年7月高岡工業専門学校教授、同25年4月富山大学助教授（工学部）、同36年4月富山大学教授（工学部）となり、36年余りの永きにわたり終始熱心に教育・研究に専念された。

この間、富山大学学生部長1期、評議員2期を務め、本学の管理・運営に寄与された。

一方、制御工学の教授として研究に従事し、人間の行う自動制御の動特性について研究し、人間の制御性能を普遍的な伝達関数によって表現した。更に最適制御の機構とその解析の手法に関する研究を行い、自動制御の理論及び情報処理の分野において多くの業績を挙げられた。

学内においては、電気工学科に制御工学講座が新設されると同時にその教授となり、教育・研究の充実に尽力された。また富山大学計算機センターの設置に参画し、その後同センター長をも務め、整備充実に尽力された。

学外においては、電子通信学会北陸支部長、電気学会北陸支部長として、また、富山県公害対策審議会専門委員として、學術の振興及び地域の発展に貢献された。



名誉教授  
岩田 弘  
東北帝国大学理学部卒業  
理学士

昭和26年4月富山大学講師（教育学部）、同33年10月富山大学助教授（教育学部）を経て、同49年4月富

山大学教授（教養部）となり、同59年4月1日限り停年により退職された。

本学教養部自然科学系列数学担当教授として着任以来、常に厳正な教育姿勢のなかにも終始懇篤な温情をもって、教養部学生の教育指導に当り、将来の社会を背負う基礎教育に専念され、優秀なる人材育成に貢献

された。

一方、数学の教授として研究に従事され、研究論文として、「有理数の正則連分数展開の長さ」をはじめその他多数の論文を発表し、広く関係学会からも高い水準を示すものであると評価されている。

### 海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	教育学部	助教授	渡邊 信	アメリカ合衆国	単細胞緑藻の微細構造の研究のため	59. 4. 4 } 60. 3. 20
海外研修旅行	"	助手	丸山 茂徳	連合王国	“続成作用と変成作用”シンポジウムに出席・論文の発表及び野外での討論のため	59. 4. 9 } 59. 4. 21
	理学部	教授	小林 貞作	中華人民共和国	ゴマ研究開発の国際交流のため	59. 4. 4 } 59. 4. 10
	"	助手	竹内 章	台湾	ユーラシア-フィリピン海プレート境界のジオダイナミクスに関する中国-フランスコロキウムに参加のため	59. 4. 22 } 59. 5. 1
	教養部	教授	藤井 昭二	インドネシア マレーシア	地質及び海水準変化の協同研究のため	59. 4. 22 } 59. 5. 9

### 学術講演会の開催

去る4月24日(火)教育学部附属教育実践研究指導センターにおいて、「シェークスピア時代における英国の地理」と題してケンブリッジ大学グラスコック博士による学術講演会が開催された。

この講演会は、同博士が砺波市で行われた日本歴史地理学会出席のため来富されたのを機会に、教育学部及び同学部社会科地理学教室が主催して開かれたものであるが、当初50名程の予想を大幅に上まわり、当日は100名余の本学教官、学生で会場は超満員となった。シェークスピア時代の英国の歴史的背景をもとに、

当時の建築物（教会、民家など）や地割の様子などについて、スライドを用いながらそれぞれ具体的事例をまじえての講演であった。講演は通訳なしの英語で行われ、話の内容は勿論さらに生きた英語の学習も兼ねて出席した学生もあった。会場はさながらケンブリッジ大学の講義室が富山大学に越してきた感があった。

講演が終了したあとのディスカッションも活発に行われたが、そのあとも熱心な学生たちの真剣な質問せめ同博士はうれしい悲鳴という様子であった。

## シリーズ「富山大学、あの日あの頃」(8)

## 〈つれづれの思い出〉

富山大学名誉教授の会 入 沢 寿 夫

私が富山に来たのは昭和30年3月1日であった。それはもう29年も前のことになる。その後の勤めを差し引けば四半世紀に近い年月になる。しかし、その期間は余り永いとは感じなかった。というのは今は忘却の彼方にあるが、その時代の方々はすでにお罷めになっておられるだろうし、現在は些かの記憶もないかもしれない。しかし、それまで役人生活をした私にとって、経験したことの無い一つのカーオスを覗いたのかもしれない。私としては一つは正義観から、また一つには続発を防ごうというおせっかいな気質から大学教官の生活に飛び込んだかもしれない。というのはその頃I教授の村八分事件があったからである。これはあまり愉快的出来事でないのだが……私には印象深い出来事だったとしか述べないで……あとはそのことの是々非々は後世の歴史が裁いてくれると考えている。

私の半生で愉快だったことは何といても十数名の方とカウンセリングの集いをもったことであろう。しかも数名の学外の人達が参加され、<sup>協</sup>も学外協同を地で行ったことである。自然私の専攻の話も出て自分自身に対しても非常に参考になった。時には学外の方を学生と間違えることもあり、必要を感じ外部から何度も講師を招いた。これは他の人にも勿論のこと自分自身にも大いに参考になった。

講師は友田不二男氏や伊東博氏らである。此頃から心理療法として「ヨガ」などが流行したように思える。尤もその前にロールシャッハCAT TAT PFT MMIT クレペリンなどの治療に出向するものもあったが…。

処でカウンセリングはサイコドラマ(心理劇)などが一種の治療法と云ってよくカウンセリ(被相談者)をカウンセラ(相談者)が、ブーバーに我と汝の執筆者などの哲学を根拠として——我国の「禅」に近いと

感ぜられる——対決するものと感ぜられる。私は禅の方がより深いと思う。なお深く検討すべく、禅に這入ろうとする人もいた。

カウンセリングは必ず相手が必要であるし禅のように一人で坐ることも出来ないので、研究集団を形成して「カウセリング研究会」と名づけ、不肖私が会長となり集会を月一回開催した。月一回とは大層熱心なことであり、今から思ってもよく続いたものだと思う。

禅との異同を検討するとカウンセリングは、飽くまでカンセラーが一對でカウンセリーをリードし、禅の作務に当たるものが目立たないのに対し、禅は考案(問題を持って面壁し)しつつ、また我を無にしようとし、或は只管<sup>只管</sup>坐することによって、我を無くしてひたすら老師に対して答える……大ざっぱに云ってこのように述べる事が出来よう。しかし簡単にかく述べることは粗雑に過ぎて精細な表現にならないかも知れないから、正確な伝達としては亦別の機会にしたいと思う。

先般(58年6月)何年振りかで富山への往訪に対して、学外の方にも多くお目にかかった。温かく迎えて頂き大変嬉しかった。

過ぎ去ったあの頃から現在までの繋りを振り返ったことであったが、その折桜木町をぶらついた頃を思い出すと自然飲み友達が目に浮んでくる次第だった。時には呉羽山でゼミをしたり、美しい山・河の富山を思い出す度に、自然と親しんだ四半世紀を印象深いものにして呉れる。想いは次々とあるが今回は以上にしておきたい。

筆者：昭和30年3月富山大学に着任

昭和53年4月停年退職

昭和53年4月富山大学名誉教授の称号授与

職員 消 息

《新任者》

理 学 部

助 手 吉田 尚弘  
(陸水学)

文 部 技 官 山本 辰美

教 養 部

事務補佐員 松崎 素子  
(保健体育)

文 部 技 官 山本 健市

文 部 技 官 米山 嘉治

《住所変更》

経 済 学 部

助 教 授 飯田 剛史

教 養 部

文 部 事 務 官 上木 祐一

工 学 部

講 師 袋谷 賢吉

附 属 図 書 館

文 部 事 務 官 脇坂 勝人

- ◎ 退庁、退室の際には、電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、火災の予防に心がけましょう!!
- ◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!
- ◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

\*\*\*\*\*

## 主 要 行 事

\*\*\*\*\*

### 本 部

- 4月  
2～4日 昭和59年度入学手続（於 学生会館）
- 9日 部課長会議
- 10日 昭和59年度入学式（於 黒田講堂）
- 10～13日 昭和59年度入学生オリエンテーション
- 11日 昭和59年度入学生健康診断
- 12日 第1回事務協議会
- 13日 第1回部局長懇談会
- 17日 部課長会議
- 19日 会計係長会議  
第39回東海・北陸地区国立大学等施設部課長  
会議（於 静岡大学）  
授業料等減免選考委員会  
第1回補導協議会
- 20日 第1回評議会  
第1回学寮補導委員会
- 23日 服務関係事務調査（経理部・施設課）
- 24日 昭和59年度学校基本調査説明会  
（於 名古屋大学）
- 24～25日 東海・北陸地区国立学校等会計部課長会議  
（於 浜松医科大学）
- 26日 第1回放射性同位元素総合実験室運営委員  
会  
富山大学名誉教授称号授与式  
服務関係事務調査（庶務部・トリチウム科  
学センター）  
第1回学園ニュース編集委員会
- 27日 第1回低温液化室運営委員会  
第41回構内交通対策委員会  
服務関係事務調査（学生部・保健管理セン  
ター）

### 人 文 学 部

- 4月4日 大学院設置推進委員会

- 9日 学部教務委員会  
教授会
- 11日 新入生オリエンテーション及び健康診断  
学部補導委員会  
大学院構想検討打合せ会
- 12日 前学期授業開始
- 13日 職業補導委員会
- 14日 紀要委員会
- 16日 学部図書委員会
- 18日 大学院設置推進委員会  
学部教務委員会
- 24日 服務関係事務調査
- 25日 教授会  
人事教授会
- 26日 大学院設置推進委員会
- 27日 4年次学生就職関係等説明会
- 28日 学部補導委員会

### 教 育 学 部

- 4月5日 前学期授業開始
- 5～6日 春季北陸地区教員養成学部事務長協議会  
（於 上越教育大学）
- 6日 附属小学校第1学期始業式  
附属幼稚園第1学期始業式
- 7日 附属小学校入学式  
附属中学校第1学期始業式
- 9日 附属中学校入学式  
附属養護学校第1学期始業式
- 10日 学部補導委員会  
附属養護学校入学式  
附属幼稚園入園式
- 11日 紀要編集委員会  
新入生オリエンテーション及び健康診断  
学部教務・補導合同委員会  
学部教務委員会  
教授会

18日	学部教務委員会 人事教授会 学部自然観察実習センター委員会	4月5日	学部教務委員会
21日	カリキュラム検討委員会	6日	教授会 工学研究科委員会 専任教授会
24日	自然観察実習センター運営委員会 学術講演会（ケンブリッジ大学教授グラスコック）	11日	新入生オリエンテーション及び健康診断
25日	学部教務委員会 教授会	12日	前学期授業開始
26日	服務関係事務調査	13日	係長連絡会 学部補導委員会
27日	学部補導委員会	18日	移転実施計画委員会
		24日	係長連絡会
		25日	構内交通対策委員会 服務関係事務調査

### 経済学部

4月7日	学部教務委員会 教授会
9日	前学期授業開始
11日	新入生オリエンテーション及び健康診断 学部将来構想検討委員会
16日	学部補導委員会 学部教務委員会（持回り）
18日	各種委員選考委員会 教授会
23日	学部職業補導委員会
25日	論集委員会 学部教務委員会（持回り）
26日	学部補導委員会
27日	服務関係事務調査

### 教養部

4月6日	教務委員会 教務・補導合同委員会 補導委員会 教授会 人事教授会
10日	教養部オリエンテーション
11日	図書委員会 推薦委員会
18日	予算委員会
24日	服務関係事務調査
25日	補導委員会 教授会 紀要委員会

### 理学部

4月6日	教育実習委員会
9日	教授会 人事教授会
11日	新入生オリエンテーション及び健康診断
13日	学部補導委員会
16日	前学期授業開始
24日	服務関係事務調査
25日	教育実習委員会
27日	学部補導委員会

### 附属図書館

4月3日	係長事務打合せ会
11日	図書館業務電算化研究会
17日	商議会
19～20日	第35回北陸信越地区国立大学図書館協議会 （於 新潟大学附属図書館）
23日	係長事務打合せ会
25日	服務関係事務調査

### 工学部

### トリチウム科学センター

4月25日 トリチウム科学センター運営委員会専門委員会

4月5日 昭和59年度入学手続  
 9日 第1回教務委員会  
 10日 昭和59年度入学式  
 新入生オリエンテーション  
 11日 新入生歓迎会  
 12日 前学期授業開始  
 定期健康診断  
 第1回教授会  
 19日 第1回財務・将来構想合同委員会  
 23日 第1回授業料等減免選考委員会  
 27日 服務関係事務調査

**保健管理センター**

4月5日 臨時健康診断（柔道部）  
 11日 新入生健康診断

**経営短期大学部**

資 料

昭和59年度富山大学入学者数

区 分	募 集 人 員	入 学 者 数	入 学 者 内 訳						
			男	女	県 内	県 外	現 役	浪 人	大学検定
人文学部人文学科	90	90(52)	38	52	45(31)	45(21)	65(42)	25(10)	0
人文学部語学文学科	80	80(66)	14	66	42(40)	38(26)	66(57)	14(9)	0
計	170	170(118)	52	118	87(71)	83(47)	131(99)	39(19)	0
教育学部小学校教員養成課程	140	145(119)	26	119	120(100)	25(19)	128(108)	17(11)	0
教育学部中学校教員養成課程	50	45(25)	20	25	29(17)	16(8)	35(23)	10(2)	0
教育学部養護学校教員養成課程	20	20(19)	1	19	13(12)	7(7)	19(18)	1(1)	0
教育学部幼稚園教員養成課程	30	30(30)	0	30	24(24)	6(6)	25(25)	5(5)	0
計	240	240(193)	47	193	186(153)	54(40)	207(174)	33(19)	0
経済学部経済学科	120	120(12)	108	12	72(11)	48(1)	74(9)	46(3)	0
経済学部経営学科	120	* 121(29)	* 92	29	69(24)	* 52(5)	94(27)	* 27(2)	0
経済学部経営法学科	60	60(8)	52	8	31(7)	29(1)	40(8)	20(0)	0
計	300	* 301(49)	* 252	49	172(42)	* 129(7)	208(44)	* 93(5)	0
理学部数学科	40	40(13)	27	13	22(12)	18(1)	31(13)	9(0)	0
理学部物理学科	40	41(2)	39	2	16(2)	25(0)	29(2)	12(0)	0
理学部化学科	40	40(19)	21	19	18(11)	22(8)	30(18)	10(1)	0
理学部生物学科	30	30(9)	21	9	5(2)	25(7)	18(7)	12(2)	0
理学部地球科学科	30	30(0)	30	0	4(0)	26(0)	13(0)	17(0)	0
計	180	181(43)	138	43	65(27)	116(16)	121(40)	60(3)	0
工学部電気工学科	50	50(0)	50	0	31(0)	19(0)	39(0)	11(0)	0
工学部工業化学科	45	45(10)	35	10	19(7)	26(3)	36(10)	9(0)	0
工学部金属工学科	40	40(0)	40	0	19(0)	21(0)	21(0)	19(0)	0
工学部機械工学科	50	50(0)	50	0	20(0)	30(0)	37(0)	13(0)	0

工学部生産機械工学科	40	40( 0)	40	0	20( 0)	20( 0)	29( 0)	11( 0)	0
工学部化学工学科	40	40( 2)	38	2	15( 1)	25( 1)	30( 1)	10( 1)	0
工学部電子工学科	40	40( 1)	39	1	32( 1)	8( 0)	36( 1)	4( 0)	0
計	305	305( 13)	292	13	156( 9)	149( 4)	228( 12)	77( 1)	0
合 計	1,195	※1,197(416)	※781	416	666(302)	※531(114)	895(369)	※302( 47)	0

(注) ( )内数字は女子で内数を示す。  
※は私費外国人留学生1名を含む。

昭和59年度大学院入学者数

区 分	募集人員	入学者数	入 学 者 内 訳						
			男	女	県内	県外	現役	浪人	
理学研究科	数学専攻	8	2(0)	2	0	2(0)	0	2(0)	0
	物理学専攻	8	7(0)	7	0	2(0)	5(0)	6(0)	1(0)
	化学専攻	10	6(2)	4	2	6(2)	0	6(2)	0
	生物学専攻	8	4(2)	2	2	0	4(2)	4(2)	0
	地球科学専攻	8	3(0)	3	0	1(0)	2(0)	2(0)	1(0)
	計	42	22(4)	18	4	11(2)	11(2)	20(4)	2(0)
工学研究科	電気工学専攻	10	6(0)	6	0	3(0)	3(0)	6(0)	0
	工業化学専攻	10	11(1)	10	1	6(1)	5(0)	10(1)	1(0)
	金属工学専攻	8	※10(0)	※10	0	3(0)	※7(0)	8(0)	※2(0)
	機械工学専攻	10	2(0)	2	0	1(0)	1(0)	2(0)	0
	生産機械工学専攻	8	4(0)	4	0	1(0)	3(0)	4(0)	0
	化学工学専攻	8	4(0)	4	0	2(0)	2(0)	4(0)	0
	電子工学専攻	8	5(0)	5	0	4(0)	1(0)	5(0)	0
	計	62	※42(1)	※41	1	20(1)	22(0)	39(1)	※3(0)
合 計	104	※64(5)	※59	5	31(3)	※33(2)	59(5)	※5(0)	

(注) ( )内数字は女子で内数を示す。  
※は私費外国人留学生1名を含む。

昭和59年度専攻科入学者数

区 分	募集人員	入学者数	入 学 者 内 訳					
			男	女	県内	県外	現役	浪人
文学専攻科	10	5(1)	4	1	2(0)	3(1)	5(1)	0
教育専攻科	5	6(5)	1	5	6(5)	0	6(5)	0
経済学専攻科	10	2(0)	2	0	2(0)	0	2(0)	0
合 計	25	13(6)	7	6	10(5)	3(1)	13(6)	0

(注) ( )内数字は女子で内数を示す。

昭和59年度経営短期大学部入学者数

区 分	募集人員	入学者数	入 学 者 内 訳						大学検定	
			男	女	県内	県外	現役	浪人		
経営学科	経営管理専攻	60	46	34	12	41(11)	5(1)	24(9)	22(3)	0
	経営・法律専攻	40	35	27	8	31(6)	4(2)	18(3)	17(5)	0
合 計	100	81	61	20	72(17)	9(3)	42(12)	39(8)	0	

(注) ※入学者の出身県別欄については出身校で区分した。  
( )内数字は女子で内数を示す。



昭和59年度富山大学学部学生数

(昭和59年5月1日現在)

学 部	学科(課程)	入学 定員	総 定員	教 養 部						子 部						合 計		
				1 年 次			2 年 次			3 年 次			4 年 次					
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人 文 部	人文学科	90	360	38	52	90	33	59	92	47	53	100	53	44	97	171	208	379
	語学文学科	80	320	14	66	80	16	68	84	32	58	90	44	57	101	106	249	355
	計	170	680	52	118	170	49	127	176	79	111	190	97	101	198	277	457	734
教 育 部	小学校教員養成課程	140	560	26	119	145	28	113	141	48	91	139	43	117	160	145	440	585
	中学校教員養成課程	50	200	20	25	45	24	30	54	23	25	48	37	23	60	104	103	207
	養護学校教員養成課程	20	80	1	19	20	5	15	20	3	18	21	1	19	20	10	71	81
	幼稚園教員養成課程	30	120	0	30	30	0	30	30	0	29	29	1	30	31	1	119	120
	計	240	960	47	193	240	57	188	245	74	163	237	82	189	271	260	733	993
経 済 部	経済学科	120	480	108	12	120	124	12	136	99	7	106	137	9	146	468	40	508
	経営学科	120	480	※92	29	※121	101	31	132	98	14	112	120	14	134	※411	88	※499
	経営法学科	60	240	52	8	60	51	14	65	51	8	59	59	5	64	213	35	248
	計	300	1,200	※252	49	※301	276	57	333	248	29	277	316	28	344	※1,092	163	※1,255
理 学 部	数学科	40	160	27	13	40	31	15	46	42	7	49	24	6	30	124	41	165
	物理学科	40	160	39	2	41	49	5	54	47	3	50	32	3	35	167	13	180
	化学科	40	160	21	19	40	27	16	43	30	19	49	15	12	27	93	66	159
	生物学科	30	120	21	9	30	26	9	35	23	10	33	19	8	27	89	36	125
	地球科学科	30	120	30	0	30	31	4	35	32	8	40	24	2	26	117	14	131
	計	180	720	138	43	181	164	49	213	174	47	221	114	31	145	590	170	760
工 学 部	電気工学科	50	200	50	0	50	58	0	58	61	0	61	48	0	48	217	0	217
	工業化学科	45	180	35	10	45	46	4	50	48	4	52	38	4	42	167	22	189
	金属工学科	40	160	40	0	40	54	0	54	34	3	37	40	2	42	168	5	173
	機械工学科	50	200	50	0	50	66	0	66	67	0	67	31	0	31	214	0	214
	生産機械工学科	40	160	40	0	40	52	0	52	52	0	52	31	0	31	175	0	175
	化学工学科	40	160	38	2	40	52	2	54	43	0	43	43	4	47	176	8	184
	電子工学科	40	160	39	1	40	44	2	46	46	1	47	36	0	36	165	4	169
	計	305	1,220	292	13	305	372	8	380	351	8	359	267	10	277	1,282	39	1,321
合 計	1,195	4,780	※781	416	※1,197	918	429	1,347	926	358	1,284	876	359	1,235	※3,501	1,562	※5,063	

(注) ※は私費外国人留学生1名を含む。

昭和59年度大学院学生数

(昭和59年5月1日現在)

区 分	入学 定員	総 定員	1 年 次			2 年 次			合 計			
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
理 学 研 究 科	数 学 専 攻	8	16	2	0	2	3(1)	0	3(1)	5(1)	0	5(1)
	物 理 学 専 攻	8	16	7	0	7	4	1	5	11	1	12
	化 学 専 攻	10	20	4	2	6	9(1)	0	9(1)	13(1)	2	15(1)
	生 物 学 専 攻	8	16	2	2	4	4	0	4	6	2	8
	地 球 学 専 攻	8	16	3	0	3	4	1	5	7	1	8
	計	42	84	18	4	22	24(2)	2	26(2)	42(2)	6	48(2)

工 学 研 究 科	電気工学専攻	10	20	6	0	6	7	0	7	13	0	13
	工業化学専攻	10	20	10	1	11	5	0	5	15	1	16
	金属工学専攻	8	16	※10	0	※10	9	0	9	※19	0	※19
	機械工学専攻	10	20	2	0	2	3	0	3	5	0	5
	生産機械工学専攻	8	16	4	0	4	3	0	3	7	0	7
	化学工学専攻	8	16	4	0	4	6	0	6	10	0	10
	電子工学専攻	8	16	5	0	5	8	0	8	13	0	13
	計	62	124	※41	1	※42	41	0	4	※82	1	※83
合 計	104	208	※59	5	※64	65(2)	2	67(2)	※124(2)	7	※131(2)	

(注) ( ) 内は57年度入学者で内数である。 ※は私費外国人留学生1名を含む。

昭和59年度専攻科学生数 (昭和59年5月1日現在)

区 分	入学定員	男	女	合 計
文学専攻科	10	5(1)	4(3)	9(4)
教育専攻科	5	1	5	6
経済学専攻科	10	2	0	2
合 計	25	8(1)	9(3)	17(4)

(注) ( ) 内は58年度入学者で内数である。

昭和59年度専攻生、聴講生、研究生数 (昭和59年5月1日現在)

区 分	専 攻 生			聴 講 生			研 究 生		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人文学部				4	5	9	1	0	1
教育学部				7	5	12			
経済学部				3	0	3			
理学部				1	0	1	4	1	5
工学部				2	0	2	※3	1	※4
教養部							4	0	4
合 計				17	10	27	※12	2	※14
学部卒以上				14	9	23	※12	2	※14
上記以外				3	1	4	0	0	0
合 計				17	10	27	※12	2	※14

(注) ※は中国政府派遣研究留学生1名を含む。

昭和59年度経営短期大学部学生数 (昭和59年5月1日現在)

区 分	入学定員	総定員	1 年 次			2 年 次			3 年 次			合 計			
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
経営学科	経営管理専攻	60	180	34	12	46	27	22	49	51	9	60	112	43	155
	経営・法律専攻	40	120	27	7	34	23	9	32	34	14	48	84	30	114
合 計	100	300	61	19	80	50	31	81	85	23	108	196	73	269	

編 集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あ け ぼ の 企 画  
富山市曙町8-4  
電話(33)3356(代)